



東京電力福島第一原発事故から15年

- 福島事故を忘れない!
- 県民置き去りの再稼働は認められない!
- 重大ミス続きの東電に運転資格なし!

3・11長岡集會に96名!!

東日本大震災・福島原発事故から15年の3月11日、アオーレ長岡ナカドマで集會を開催。オープニングのうたごえ、主催者挨拶、アピール採択の後、地震発生時刻午後2時46分に黙祷。その後、大手通りをパレードして市民みなさんに「再稼働は認められない!」と訴え、「原発のない新潟県を子や孫に残すために力を合わせましょう!」と呼びかけました。

今年、福島事故を起こした東京電力が、未だ事故の収束には程遠い中で柏崎刈羽原発の再稼働を強行したことへの怒りの中で開かれた集會となりました。近隣市からも駆け付け、これまで以上に多くの参加者となりました。稼働による事故の危険性が格段に高まっています。再稼働をストップさせましょう!

長岡市長宛に集會アピールを届けました。(3/13)

*裏面に掲載

集會翌日、世話人6人で市役所を訪れて原子力安全対策室課長補佐さんへ手渡し、アピールに込めた思いを伝えました。その後懇談を行ない、

今年のような大雪時の避難、県民置き去りの花角知事と県議会の判断の問題、市長の公約の姿勢を今後も大切に要望しました。



しまくま写真展「フクシマ」3/10~3/12の3日間で215人が来場。フクシマの過去、現在を知り、被災者を想い原発はなくしたいと強く思いました。

【感想の一部から抜粋】

◆自然のおそろしさに、ただただ胸が痛くなります。原発の恐ろしさをヒシヒシ感じます。◆新築したばかりの家がそのまま残さされている。ローンをかかえていたのだろうか。どうやってこの現実を受け止めたら良いのか。自分だったら...と思わずにはおられない。この様子を東電と政府につきつけないか。再稼働なんて花角知事は福島の今をどう思っているか知りたい。

◆15年経過した。二度とふるさとの地をふむことのできない人たちの思いはいくばくか。柏崎刈羽原発再稼働を容認した知事と議会の責任は重大で、仮に事故があったらどのように責任を果たすつもりか。



1月21日の再稼働以降だけでも、制御棒の不具合、中性子測定装置停止、排気塔配水管の空気漏れ、金属疲労による「接地導体」破損などトラブルが相次いでいます。プラント全体に予期しない問題が潜んでいる可能性もあります。重大事故が起きてからでは取り返しがつきません。直ちに再稼働を断念するよう求めます。



一刻も早く県民に届けるためにご協力ください!

「柏崎刈羽原発再稼働の是非を考える県民ネットワーク」は、柏崎刈羽原発を巡るこれまでの経過とこれからの選択について県民の皆さんと一緒に考えようとリーフレットを作成しました。5月に予定されている知事選での選択に活かしていきましょう。※配布協力のお問合せは五十嵐さんまで(080・1242・1804)

一方、県は「柏崎刈羽原子力発電所の安全対策・防災対策の現状をまとめたリーフレット」を作成。3月29日に新聞折込を行うほか、3月の下旬から県内の各戸に町内会を通じて配布するとのこと。原発の危険性に触れず安全対策のみの公報で、原発推進の世論作りをすすめるようとしています。



4月のアオーレ前宣伝行動は 4月11日(土) 12時~12時30分 ぜひご参加を!

原発ゼロ長岡市民ネットニュース 第167号 2026年3月23日発行

連絡先 広井洋子 長岡市寿2-5-15 電話・FAX 0258-24-2870

